

◆ 研究部の人事異動

- ・吉田憲司教授は4月1日付けで、国立民族学博物館館長となりました。
- ・須藤健一館長は3月31日付けで任期満了し、4月1日付けで堺市博物館館長となりました。
- ・竹沢尚一郎教授は3月31日付けで定年退職し、4月1日付けで名誉教授となりました。
- ・塚田誠之教授は3月31日付けで定年退職し、4月1日付けで名誉教授となりました。
- ・林勲男准教授は4月1日付けで、人類文明誌研究部教授となりました。
- ・川瀬慈助教は4月1日付けで、人類基礎理論研究部准教授となりました。
- ◆ 機関研究員の着任（5月1日付）
 - ・左地亮子 [グローバル現象研究部] 専門は文化人類学。ジブシー／ロマ研究。フランスを主としたヨーロッパを調査地とし、ジブシー／ロマの旅と居住の実践について研究しています。
- ◆ 拠点研究員の着任（4月1日付）
 - ・菅野美佐子 [南アジア拠点] 専門は文化人類学。インド農村社会のジェンダー関係や女性の社会的位置づけの変化についての研究を進めています。

◆ シンポジウム等

- ◆ 開館40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」関連公開研究会
「北東アジアのガラス玉の道—アイヌのタマサイを中心に」
日時：2017年3月25日（土）
企画：国立民族学博物館北東アジア地域研究拠点
- ◆ 特別研究プレシンポジウム「歴史生態学から見た人と生き物の関係」
日時：2017年3月26日（日）
企画：池谷和信 →詳細26頁

◆ 刊行物

- 『文化人類学—人類を探求し、新たな人間観を創出する学問』
岸上伸啓著、2017年2月、学術出版会風土デザイン研究所。
- 『財団法人日本民族学協会附属民族学博物館（保谷民博）旧蔵資料の研究』（SER139）
飯田卓・朝倉敏夫編、2017年2月、国立民族学博物館。
Reducciones: la concentración forzada de las poblaciones indígenas en el Virreinato del Perú.
Akira Saito y Claudia Rosas Lauro (eds.), Feb. 2017, Fondo Editorial de la Pontificia Universidad Católica del Perú.
- 『アンデス文明—神殿から読み取る権力の世界』
関雄二編、2017年3月、臨川書店。
- 『国立民族学博物館収蔵「ホビ製」木彫人形資料熟覧—ソースコミュニティと博物館資料との「再会」1』（SER140）
伊藤敦規編、2017年3月、国立民族学博物館。
- 『物質性の人類学—世界は物質の流れの中にある』
古谷嘉章・関雄二・佐々木重洋編、2017年3月、同成社。
- 『狩猟採集民からみた地球環境史—自然・隣人・文明との共生』
池谷和信編、2017年3月、東京大学出版会。
- 『アーミッシュたちの生き方—エイジ・フレンドリー・コミュニティの探求』（SER141）
鈴木七美、2017年3月、国立民族学博物館。
- 『グローバル支援の人類学—変貌するNGO・市民活動の現場から』
信田敏宏・白川千尋・宇田川妙子編、2017年3月、昭和堂。

◆ 開館40周年記念特別展

- ◆ よみがえれ！シーボルトの日本博物館
会期：2017年8月10日（木）～10月10日（火）
場所：国立民族学博物館 特別展示場

◆ 開館40周年記念企画展

- ◆ カナダ先住民の文化の力—過去、現在、未来
会期：2017年9月7日（木）～12月5日（火）
場所：国立民族学博物館 企画展示場